

音源の比較試聴(7)
—ムソルグスキーの展覧会の絵—

1. 始めに

前報(6)に引き続き、各種音源の再生経路に関するアースアキュライザーを含む種々の対策の効果の確認のため、各種音源の比較試聴を実施します。

2. 音源の比較試聴の試聴方法と音源

各種音源の再生経路に関するアースアキュライザーを含む種々の再構成はアースアキュライザーの活用(6)で述べたとおりです、今回もそれらの対策の効果を総合的に確認していきます。

音源は、各種音源のムソルグスキーの展覧会の絵を聴いていきます。

アナログ

Hi-Q Records HIQL_P013

リカルド・ムーティ指揮フィラデルフィアオーケストラ

Columbia OS-143

レナード・バーンスタイン指揮ニューヨークフィル

ドイツグラモフォン 20MG 0457

クラウディオ・アバド指揮ロンドン交響楽団

STAGE+

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリンフィル

フランツ・ウェルザー・メスト指揮クリーブランド管弦楽団

ベルリンフィルデジタルコンサートホール

トウガン・ソヒエフ指揮ベルリンフィル

ワレリー・ゲルギエフ指揮ベルリンフィル

ベルリンフィル金管楽器奏者・打楽器奏者

3. 音源の比較試聴の試聴結果

アナログ盤は、再生前に CD クリーナーで処理します。

アナログ盤 3 枚は、LINN LP-12 で再生します。そのうち、ドイツグラモフォン 20MG 0457 盤は TohrensTD12 と Garad401 でも再生します。

まず、LINN LP-12 での再生ですが、次のようになりました。

Hi-Q Records HIQL_P013 盤は、切れ味良く、押出のある音の演奏です。

Columbia OS-143 盤は、ややソフトタッチで、華やかな色彩感あふれる演奏となっています。

ドイツグラモフォン 20MG 0457 盤は、緻密でありながら、この曲の色彩感を十分に表現しています。

以上のように、盤毎の特徴を描き分けられるようになっていきます。

そして、ドイツグラモフォン 20MG 0457 盤を TohrensTD124 で再生しますと、元の押出の良さを残しながらも、緻密な表情も加わってきています。

ドイツグラモフォン 20MG 0457 盤を Garad401 で再生しますと、真空管フォノステージの穏やかな鳴り方に切れ味の良さも加わってきています。

このように、プレイヤーやカートリッジやフォノステージの個性は保ちながら、全体的にレベルが上がってきています。

STAGE+のカラヤン指揮ベルリンフィルの再生は、1986年の収録で、カラヤンが淡々と指揮しているようですが、オーケストラは細部まで緻密な音の構成で応えています。

STAGE+のメスト指揮クリーブランド管弦楽団の再生は、音の良いことで知られているクリーブランドのセベランスホールでの2023年の収録です。個々の楽器の質感、とりわけ低音楽器の量感と明瞭さが感じ取れます。

ベルリンフィルデジタルコンサートホールのソヒエフ指揮ベルリンフィルの再生は、2018年の収録でソヒエフの、にこやかな表情の指揮から始まり、終章に向かうに従い熱を帯び、楽器の質感を活かした熱っぽい演奏で締めくくります。

ゲルギエフ指揮ベルリンフィルの再生は、10年ぶりの2010年収録のゲルギエフのベルリンフィル登場でエネルギッシュな演奏が大ホールに響き渡ります。

ベルリンフィル金管楽器奏者・打楽器奏者の再生は、エルガー・ハワーズ編曲版の2020年の収録で、個々の金管楽器と打楽器の質感が明瞭です。

このように STAGE+とベルリンフィルデジタルコンサートホールの配信の再生でも、LAN経路の対策に加えて、Brooklyn DAC+へのアースアキュライザーによる仮想アースの接続の効果で、アナログに負けないレベルまで達しています。

4. まとめ

アナログプレイヤー3機種によるアナログ再生、二つの配信サイトからのストリーミング再生のいずれをとっても、アースアキュライザーの投入とそれに伴うアースラインの再構成の結果、すべて効果が明白に現れ、格落ちするような再生経路はなくなったことが確認できました。

以上